

普及活動情勢報告（令和6年9月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

刈払機の安全使用について学ぼう！ ～ユズ講座～



刈払機の安全使用に関する動画を視聴する参加者

8月18日、JA高知県安芸地区柚子部がJAあき支所にて「ユズ講座」を開催し、生産者28名が参加しました。

この講座は平日に参加できない生産者のために、日曜日に開催しているものです。

今回の講座では、農業改良普及課による農作業安全対策の講義の後、刈払機の安全使用に関する動画を視聴しました。また、新規就農者が就農後の営農状況について報告を行いました。

受講者からは、「刈払機の安全使用や点検方法について理解が深まった」「部会として新規就農者等担い手の育成が必要」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も講習会等を通じて、新規就農者や兼業農家等多様な担い手の技術習得、経営改善に向けて支援します。

新たなアザミウマ対策～オキシペタラムでの赤色LED実証試験～



トラップ調査

9月2日、JA高知県芸西支部ブルースター部会の生産者ハウスにアザミウマ類対策として赤色LEDの実証ほを設置しました。

国の事業を活用して実施しており、農業改良普及課は、専門技術員および県農業技術センターと試験内容を検討し、粘着トラップでの調査を開始しました。

実証農家からは、「効果があれば全ハウスに導入したい」との声が聞かれました。

今後は、実証結果の共有や実証ほでの現地検討会を開催する予定です。

就農に向け基礎知識を習得しよう！ ～簿記講座の実施～



簿記について指導する普及指導員

9月5日、安芸農業振興センターにて、東部研修拠点の研修生3名を対象にJA高知県安芸地区と協同で簿記講座を開催しました。

農業改良普及課は、簿記の種類や必要性、経営状況を把握する上での青色申告の役割等を説明し、ソリマチを使った入力演習についても支援を行いました。

参加者からは「基礎から丁寧に説明があり分かりやすい」「なんとか一人でできそう」との声が聞かれました。

今後も農業改良普及課は、関係機関と連携して研修生の育成に取り組みます。

酒米「吟の夢」の適期収穫に向けて～安芸地区特産部酒米研究会現地検討会～



穂色を確認して刈取り時期を検討する生産者

9月11日、JA高知県安芸地区特産部酒米研究会は安芸市東川地区において酒米「吟の夢」現地検討会を行い、生産者6名、関係機関4名が参加しました。最初に全ほ場を巡回し、病虫害の発生状況や稲穂の黄熟程度を確認。その後、東川公民館で巡回結果に基づき、ほ場ごとの収穫適期の検討を行いました。農業改良普及課は、穂籾の黄熟程度による収穫時期判定法を周知しました。

生産者からは「昨年度は胴割れ米が多かった。今年は適期収穫し、籾も急激に乾燥させないようにしたい」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は今後、JAと連携し、収穫前後の管理や収量・品質を調査し、次作に向けた改善策を整理し、情報提供していきます。

みんなで目指せ!!みどり認定取得 ～みどり認定取得に向けた説明会～



説明会の様子

JA高知県の安芸市内3出荷場に所属するナス農家約360名は、環境負荷の少ない農業を実現し、将来にわたって営農できるように持続可能な農業の実現に向けて、「みどりの食料システム法」に基づくみどり認定取得を目指して取り組みを始めました。

9月12日と13日には、3出荷場で約90名の農家に対して農業改良普及課がみどり認定の意義等を説明しました。農家からは、「具体的な説明でよくわかった」「持続可能な農業の大切さが理解できた」といった意見が聞かれました。

農業改良普及課では今年度の認定取得に向けて関係機関と連携して申請書類作成等を支援していきます。

ポンカン雇用就農者の技術向上に向けて～摘果講習～



摘果する果実を確認する雇用就農者

安芸農業振興センター農業改良普及課室戸支所では、ポンカンの大規模栽培農家の雇用就農者を対象に、主要な管理技術の向上のために、定期的に巡回指導を実施しています。

9月17日には、雇用就農者1名に、摘果の意義、優先的に摘果する果実（外観・大きさ・着果部位等）について講習を行いました。

雇用就農者からは、摘果の時期、量、着果位置などについて質問があり、摘果に対する理解が深まりました。

室戸支所は、雇用就農者に対して防除、収穫、剪定といった主要な作業について計画的に指導し、技術向上を支援していきます。

SAWACHIを使いこなそう！～IoPクラウド「SAWACHI」教室【安芸・芸西地区】～



SAWACHI教室
(芸西会場)

9月18日～19日にJA高知県安芸支所、芸西支所でIoPクラウド「SAWACHI」教室を開催し、SAWACHI登録者延べ13名が参加しました。

講師のドコモスタッフから、スマートフォン等での登録や設定方法、主な営農支援サービス機能の利用について説明しました。

農業改良普及課は、JA等関係機関と連携して操作の補助や営農サービス機能の詳しい説明を行いました。

出席者からは「タブレットの大きな画面でも使いたい」「ハウスごとの出荷量を管理したいので助かる」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関とともにデータ駆動型農業を推進します。